

新年あけましておめでとうございます。新しい年に、主の祝福がありますように。2023年が、兄弟姉妹と共に、喜びを共にし、交わりが深められる日々でありますよう、心よりお祈りいたしております。

充満の時

清水潔先生が、日本アシュラムの関西支部の代表となられた2021年から、アシュラムの5本柱を一年ごとに心に留めて歩みを続けています。今年はその3本目、「充満」です。これは、「御霊の啓導と充満」というサブタイトルがついています。

神様に心を開き（開心）、聖書の言葉に耳を傾けるとき（静聴）、主の御心が魂に満たされます。これが充満です。

求道という言葉がありますが、一つの道を極めるために、精進を続ける中で、自ずと悟ることがあると言います。主イエスの救いは、すべての人に与えられた無限の愛です。しかし、その本当の価値を知るには、私たちの飢え乾きということが、深く関係しています。どんなに素晴らしい景色も、感動する音楽も、実際にそこに行ってみなければ得られない臨場感というものがあります。救いという理解も、分かったつもりでこんなものだ、と納得することもできますが、実際に聖書を読み、祈り、集会に集い、黙想を続ける中から、心震える感動、揺るがない確信、研ぎ澄まされた信仰の理解が与えられます。一人ひとりの中に、主の恵みがいっぱい満ちるなら、なんと素晴らしいことでしょうか。このことを切に祈り求めます。

共に交わり

この充満というテーマにふさわしいみことばを求めていた時に、与えられたのが詩133編でした。これは献堂15周年の記念礼拝の時に、心に湧いてきた箇所です。

アシュラムは、どちらかというとな個人的な体験であり、内面を見つめる働きです。しかし、教会という場所はその性質からして共同体であり、「わたしたちの信仰」が大切です。うどんの湯気が教会から消えて、もうすぐ3年になります。夏期聖会やバイブルキャンプ、かつては教会の方々と半日旅行などにも行っていましたが、そのような交わりの機会がことごとくなくなってしまいました。これは、単純にお楽しみがなくなった、ということ以上の深刻な問題です。

献堂記念礼拝の朝、こうして兄弟姉妹が共に集い、礼拝を捧げることができるという、大きな恵みが私たちには神様から与えられているのだ、ということ強く感じました。私たちはこれを守っていくよう託された使命があるのだと受け止めました。

共に交わり、座り、もし許されるなら、共に食し、時に夜を語りあかし、天国の恵みがこの教会に注がれ、兄弟姉妹の魂が潤されることを祈ろうではありませんか。